



Creative Lab 2020 Special Interview

Mayuka Hirata

みき **自己紹介をお願いします。**

真優香さん 総合文化政策学部 4 年平田真優香です。よろしくお願いします。

一同 **よろしくお願いします。**

あおい **まず初めに、なぜ総合文化政策学部、クリエイティブラボに入ったのかということをお聞きしたいです。**

真優香さん 元々子役活動をやっていたこともあって、エンターテインメントが好きでした。将来的に、演者をやるのか裏方をやるのかと考えたときに裏方のお仕事を深く知らないなと思ったんです。座学だと本などで学べるので、実践的な経験を積みたいと思い、大学という括りで探しました。見つけた時、どうしても入学したいと思いました。

あおい **もともとクリエイティブラボのことは知っていたのですか。**

真優香さん 詳しくは知らなかったのですが、クリエイティブラボの活動は受験する前から見ていましたね。

みき **クリエイティブラボに入って印象に残っていることはなんですか。**

真優香さん [Alexandros] さんへのインタビューです。
それまでデジタルサイネージや PR など、色々なことに関わらせてもらっていたのですが、それまでの経験の集大成という感じでした。
一週間前に「はい、やってください！」と言ういつもの山本さんの無茶ぶりで。お名前は存じあげていたんですが、正直「ワタリドリ」などの有名な曲しか聴いたことがなかったんです。この状態でインタビューに行くのは失礼にあたるし、対応できないと思い、できる準備はすべてしました。[Alexandros] さんの曲を 24 時間聴く勢いでずっと聴いていましたし、SNS もハッシュタグを 5

年分くらい遡って [Alexandros] さんとドロスファンの方々について調べました。それで当日のハプニングを乗り越えられました。

さやか **どんなことがあったんですか。**

真優香さん 座ってインタビューすると聞いていたんですけど、色々入れ違いがあったみたいで、校内を練り歩きながらインタビューすると当日聞かされました。

さやか **たしかに歩いていましたよね。**

真優香さん 私たちは歩くことを知らなくて、一張羅でこいと言われていたので、みんなヒールとかを履いていたんです。「どうしてヒールを履いてきたんだ」と言われてしまい、みんなダッシュでスニーカーを買いに行きました。私はインタビュアーで時間がなかったので、お気に入りのパンプスにガムテープをぐるぐるに巻き付けました。他にもハプニングがありましたが、今までの経験が全部活きているぞという感じでした。少年漫画の最終回みたいにフルパワーでやりました。

あおい **ラボならではの経験という感じがしますね。他の学部では経験できないことだと思います。**

真優香さん [Alexandros] さんが気さくな方々だったので、本当にありがたかったです。だからこそ、良いインタビューになりました。



あおい **ラボで一番苦労したことはなんでしたか。**

真優香さん パッと浮かばないですね…。そういうバタバタも含め振り返ってみると楽しかったなと思います。山本さんの無茶ぶりも、こういうものだと思って受け入れていたので苦労とは感じませんでした。

あおい **[Alexandros] さん以外でなにか山本さんからの無茶ぶりってありましたか。**

真優香さん グリーンフェスという OBOG の方々が集まる学園祭で突撃インタビューをしてこいと言われたことです。断られ、また声をかける、承諾してくださったらインタビューをし、また次の人を探すというのを5時間くらい繰り返していたら、高橋克実さんを校内で見つけてダッシュで駆け寄って、声を掛けました。

一同 えーすごい！

真優香さん ありがたいことにインタビューさせて頂けました。本当にお優しい方でよかったです。その日は、むちゃくちゃでしたね（笑）あとは原監督にインタビューすることが決まっていたんですけど、インタビューする時間がかなり限られていると言われ、短い時間でどんなことを聞き出そうかと悩みました。

さやか 何を聞いたんですか。

真優香さん 全日本駅伝直前だったので、遠回しに今年の駅伝のテーマを聞きました。そうしたら、原監督お馴染みの「〇〇大作戦」をその場で決めてくださるという嬉しいサプライズがありました。「全日本駅伝は Be The Difference 大作戦でいきます！」という。「ここでいいんですか！？」と思いましたが、すごく嬉しかったです。汗だらだらでしたが、振り返ると楽しかったです。

さやか 結構行動的ですね。

真優香さん 必死って感じでした。



みき その様々な経験を通して自分に身についたと思うことは何ですか。

真優香さん 瞬時に状況を察知して判断する能力が身についたと思います。慣れてないとどうしようが勝って焦ってしまうと思うのですが、このくらいのやばさは想定内と思っています。想定外のことが起きることが想定内という。

みき 結構いつでも冷静なタイプですか。

真優香さん 心の中では「わー！」となっているんですけど、「顔に出ないね」と周りから言われます。「わー！」ってなりながらも常に考えているって感じです。他のラボ生もそうだと思う。どうしようで停止してないって感じかな。

さやか 次のことを具体的に考えながら行動しているって感じですよ。

真優香さん そうですね！

さやか そういう力って就活で役立ちましたか。

真優香さん 面接も基本的に想定外だらけだと思うんですよ。一発芸など、何を振られても「それくらいの対応力が求められているのだ」と納得してやっていました。

あおい 臨機応変に対応するのもそうですしメンタルも鍛えられそうだなって思います。

真優香さん 就活においてもそうですし、人生においてメンタルは大事ですよ。

さやか ちなみに、真優香さんは何をしたんですか

真優香さん テレビ局の面接では、ミュージカルのレ・ミゼラブルの「On My Own」という悲劇的な歌の途中で羊のもののまねを挟むというのをやりました。プロの歌を間近で聞いている方々なので、ただ歌うだけだと太刀打ちできないと思って（笑）「そうくるとは思わなかった」と笑っていただけました。

さやか メンタルですね。

真優香さん もう思い切ってやり切ることが重要だった！



あおい	ラボ以外で頑張っていたことを教えてください
真優香さん	バイトはたくさんやっていました。勉強ももちろん力を入れていたんですけど、例えば動画編集を学びたいと思った時、機材やソフトにお金がかかりますよね。たくさんの人と関わるのも大事だなって思ったとき、これまたお金がかかる。お金も得られて、色々な社会経験をできるならいいじゃないかと、本当に色々なバイトに手を出しました。朝カフェバイトを1限の時間までして、2〜4限を受けて塾に移動し、2クラス教えて、作文の添削をして帰宅みたいな日もありました。
さやか	ほかに何のバイトをしていたんですか。
真優香さん	出版社でのバイト、単発のイベントスタッフや展示会のスタッフなどをしていました。
あおい	どんな意識で色々なバイトをしていましたか。
真優香さん	時給で働いていると「あと15分でお金がもらえるー！」となりがちですが、そうではなく今自分がどうしたらいいものを提供できるか考えると見えるものが変わってきます。 塾講師ではクラスや生徒個人に合わせてどんな例を出してどこまで深く解説したら良いか練ったり、カフェのバイトではここでの時間をより良く過ごすしてもらうために私は何ができるかということを考えたりと、相手の立場になって考えることを意識していました。
みき	私もその姿勢見習います。
真優香さん	疲れちゃうときもあるんだけどね（笑）
みき	10年後どうなっていたいですか。
真優香さん	本当に難しい！出版業界だけでも、紙だけではなく電子書籍やウェブサイトと、マスメディア自体が変化しているので私がどの媒体でどんなことをやっているのか想像がつかないです。 ただ1つ言えるのは、新しいものを取り入れながら、新しいからやるのではなくて、本当に知りたい情報、心からわくわくするコンテンツを発信したいということです。そのためには私はまだまだなんですけど…たくさん勉強して10年後先陣をきれる人になっていたと思います。
みき	山本さんは「アンテナを張れ」とおっしゃっているイメージがあるんですけど、新しいものを察知したりするにはアンテナがやはり必要なんだなと思いました。真優香さんは日常生活の中で心掛けていること、意識していることはありますか。
真優香さん	大切にしているのは相手の好きなものを知りたいと思う気持ちです。素敵なお洋服を着ているお友達がいたらポイントやどこのものか聞いてちゃいます！もちろん相手が嫌だと思わない範囲を測りながら。

それが漫画や小説でも同じです。人の好きポイントを知ると新しい発見がたくさんあります。

街とかも見えています。「広告が減っているな。あの小さい会社も広告を出しているってことは広告費が安くなっているのかな。最近あの会社は調子がいいのかな。調べてみよう」みたいな感じで。

みき **色々なものに興味をもつってことですね。**

真優香さん ひたすら拾っているって感じです。
書店にお散歩に行って、知らない言葉があったら調べてみようとか。ネットもいいんですが、フィルターバブル囲まれちゃうので。自分の興味のあるものから意識的に抜けてみるのが大事かなと思います。

あおい **新しい見方も見つかるし、わたしも見習おうと思います。**



あおい **なぜまゆかさんは出版社を受けたのですか？**

真優香さん 理由は色々あるのですが、私は興味の幅が広い自信がある一方ですべてのことについて1番になれないというコンプレックスがあるんです。ファッションも映画も好きだけど一番になれないし、アニメも本も極めている人には全然敵わない…
そう考えた時に、全ての情報を網羅して伝えることができるメディアは雑誌かテレビだなと。どちらかということと自分の言葉を紡ぐ方が好きだったので、自分の言葉を発信できる仕事を受けようと思ってそれができる職種に絞りました。

あおい **なるほど。特定のものが好きというより、色々なことに興味があったんですね。**

真優香さん そうなんです。「いいな！」と思ったものを一定期間で深掘りするのが好きで、有名なアーティストさんだったら何曲かは必ず聞いていますね。いいものが次々出てきて時間が足りません。

みき **私もそういうタイプです！**

特定の人にハマるというよりかは、広く色々なものに触れますね。だけど私は、自分の言葉で発信するのではなくて、受け止めるタイプなので、自分で発信できるまゆかさんは凄いなと思います！自分の言葉で伝えることって、自分のことが分かっていないとできないと思うので。真優香さんは、昔から自分の言葉でよく発信されてきましたか？

真優香さん はい。ただ自分について語りたいかと言われるとそうではなくて、何かについて話したいタイプですね。子役をやっていた時も、自己 PR の時間に隣の子の PR を始めちゃったりだとか（笑）

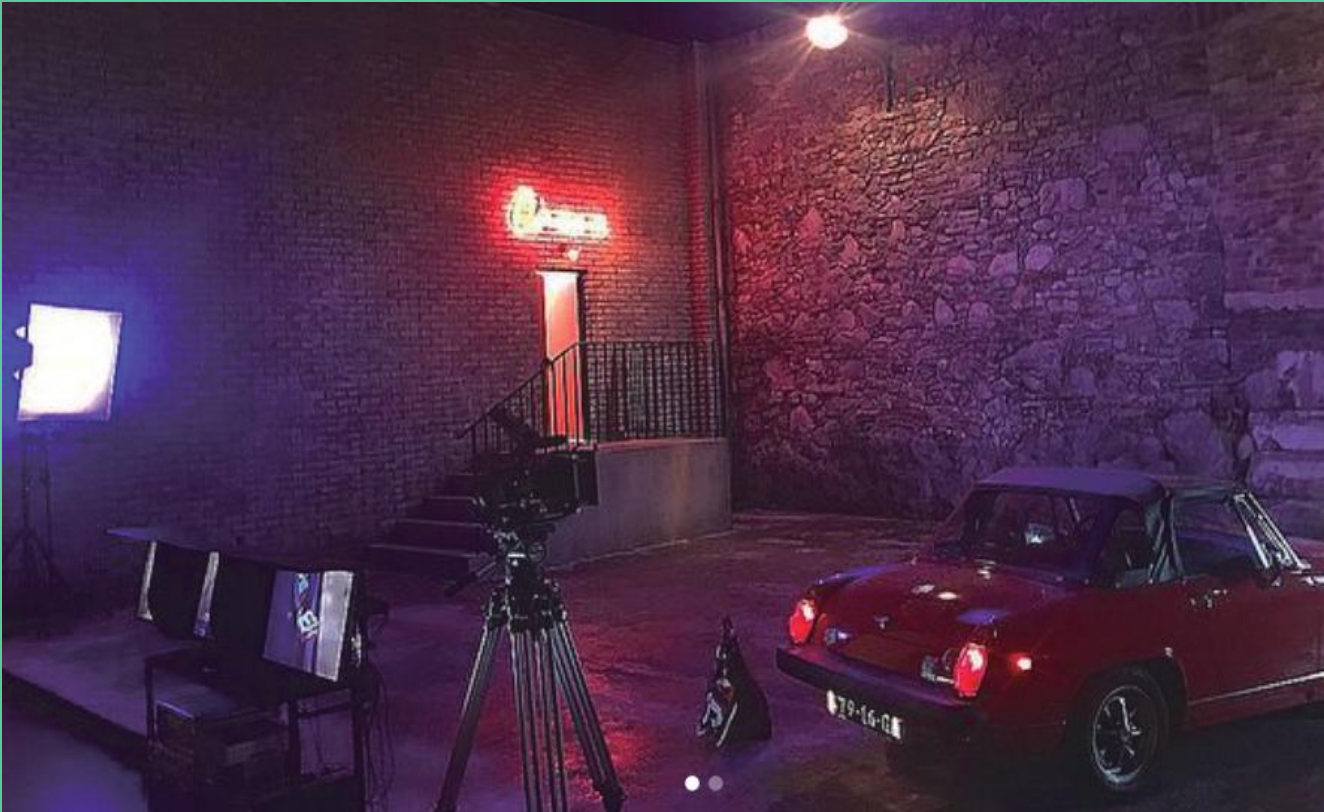
みき そうなんですね！それは、真優香さんの個性ですね。

真優香さん そうですね！だから私はインタビューがしたいと思って、ラボでインタビューをたくさん任せていただきました。他にも周りから人と変わっているねと言われるのは、コンテンツを受け取っている人を見るのが好きなところですね。人が楽しんでいる姿を見るのが大好きなんです！番組の視聴者の方のリアクション、新曲が発売された時のみんなの反応、雑誌の企画に対する読者の方々の反応などみんなのリアクションが気になります。

みき 面白い視点ですね！

真優香さん 何に対しても「こうしたらもっとみんなが喜んでくれるかもしれない」「こんなのも面白そう」と考えているかもしれないです。ライブ映像も、どうしても客席を見てしまうんですよ。みんなはここで感動するんだなとか、歓声が湧くような演出を用意したはずなんだけど実際にはみんな笑っていて、それはそれで楽しそうだなとか。

あおい たしかに、ライブの DVD を見るとなると、どうしてもアーティストの方を見てしまいますし、私は見ても演出に目を向けるくらいです。観客の表情はなかなか気にしないので、自分にはない視点だなと思いました！



真優香さん 今やっている配信ライブは、無観客なので客席のリアクションが見られないのが辛いです…

あおい たしかに！

はんな 子役時代のまゆかさんについてもお伺いしたいです。
私の周りで子役経験があるのがまゆかさんだけなので、子役について未知の世界なのですが、普通の子供だったら味わえない経験や、子役の活動が今に繋がっていることがあれば、教えて頂きたいです！

真優香さん 幼少期はお仕事で一緒にいる人たちと関わることの方が多かったので、正直何が普通か分かっていなかったですね。今振り返ると貴重な経験をたくさんさせて頂いたなと思うんですが。放課後すぐにレッスン行ったり、学校を早退したり、欠席しなくてはいけないことが増えて、テストも登校した日にまとめて受けるような生活でも、担任の先生や学校の友だちの協力もあって” 普通” に過ごさせていました。

はんな 小学生とは思えないくらいハードスケジュールをこなしていたのですね！

真優香さん 子どもながらにお仕事だという意識はしっかりと持っていたのでできていたのかなと。今でもお金がもらえても、その代わりに私は何が提供できるのかや、求められているクオリティを返せているのか気にしています。これは、小さい頃に持つことができた考え方なのかな。

あおい 幼少期の経験は今でも生きていて、まゆかさんを形成しているんですね。

真優香さん 小学生は人格形成の時期ですからね。無意識のうちに組み込まれているものがたくさんあると思います。当時出会った大切な仲間のみんなは、作り手として働いている方、演者として第一線で活躍している方などそれぞれの分野で頑張っているのを知っているので、「私も追いつかなきゃ！」という気持ちになります。とても良い刺激を受けています。



あおい まゆかさんは Instagram を趣味として積極的に運用していると思うのですが、投稿する時に意識していることはありますか？

真優香さん 自分の好きなアイテムや好きな世界観を残しておきたいなと思って投稿をしています。それに対してリアクションをくださる方がいたり、逆にオススメを教えてもらったりと、みなさんとコミュニケーションが取れるのが本当に楽しいです。

私のネイルデザインをフォロワーさんがやってみてくれたり、おそろいのものを買ってくれたりしていると「私の発信がどこかで活きている！何か力になれている」と毎日ハッピーな気持ちになります。

一方で、かっこつけすぎるのも私らしくないので、半目の写真や課題がピンチとかも載つけちゃいます（笑）かっこつけた部分ばかり載せていると、見ている人のプレッシャーになってしまうかなと思って。バタバタしている私も、面白がってもらえたらなと思います。



あおい たしかにそういう投稿があると、親近感が湧きますね！

真優香さん リアクションをいただけることが本当に嬉しいです！

みき ラボの活動や自分の経験が就活で活きたと思うことはありますか？

真優香さん 「相手の考えていることを引き出したい。ファッションが好き。自分で言葉を紡ぎたい。」やりたいと思える仕事はなんなのか考える上で、ラボの経験は大きかったです。1つ1つのラボでの活動が全部の選択に活きたなと思っています。

みき インタビューする際に気をつけていたことはありますか？

真優香さん 相手のことを深く知ることとファンの方々の気持ちを考えることの2つを強く意識していたかな。「このファンの方々は彼らのこういう部分が好きと言っているからそこを掘ろう」「自分がファンならここが聞きたい」というのを一生懸命考えていました！

当日まで、情報を集めて、質問を考えて、取捨選択してを繰り返していました。

みき 知ることって大事なんですね！

真優香さん 絶対大事！就活のときも気が狂うほど調べて行きました！

調べることと情報の質を判断することがこの情報社会で大切なことだと思います。

はんな

仰る通り、前提として調べないと始まらないですもんね！

あおい

就活全体として大変だったこと、苦労したことを教えていただきたいです。

真優香さん

すごく準備するタイプなので、行きたい企業の選考が固まった期間は大変でした。「あともうちょっと！」と準備していたら睡眠の時間が無くなってしまって、選考中に頭が真っ白になってしまったことがあります。「人間の限界ってここなんだなー」と。すごく反省しましたね。限界値を測れない人間はダメだなーって！

お祈りメールもメンタルくるじゃないですか！大阪の会社を受けた際、帰りの夜行バスでへろへろの状態の時に不採用通知が来て、ツーっと涙が。次の日の早朝、新宿バスタに着いたときには顔も脚もパンパンで、浮腫んだ脚を引きずりながら学校に行きました。あれは本当に辛かったですね。

はんな

そこから自分を奮い立たせることは簡単なことではないと思うのですが、他にモチベーションになっていたことはありますか？

真優香さん

やっぱり自分が作った企画を実現させたいとか、それを見て喜んでくれる人が見たいなという原点の気持ちですね。それを実現するにはやるしかないなと。

あとは一旦ひたすら泣く！好きなアーティストの曲を聴きながら部屋で泣いていました。そのあといろんな方のインタビュー記事を読んで「この方々はもっと大変な想いをしてきたんじゃないか。自分なんてそんなに大変じゃないぞ！」という具合にやる気を出していました。

あおい

既にインターンで病んでいる三年生も多いので勉強になります！そういう姿勢、本当に見習っていきたいです！

はんな

まゆかさんでもそんな時期があったんですね。

真優香さん

もちろん。

思いっきり沈んじゃえば戻ってくるしかないから、その日のうちにへこみ切ろう！と思って意図的に沈みにっていました！

はんな

そうやって自分の気持ちをコントロールできるようにしていきたいですね。

真優香さん

自分の機嫌をコントロールできるスイッチを持つておくのは大切！機嫌がとれるものと、落ちるものを持っていると、上手く切り替えられるので。面接直前は阿部真央さんの「どうですか、あなたなら」という曲を聴いていました。全部共感できるんですが、特に「完璧な自分を諦める勇気を　ダメな自分を愛せる生き方を」という歌詞で励まされ、「全力出して落ちたのなら仕方ない。なんなら向こうがセンスない！」と気持ちを高めていました。強気じゃないといけないんで！笑　大変だと思うけれど、頑張ってください！応援しています！

みき

まゆかさんの考え方、価値観をかなり吸収してしまいました！

あおい

私たちも、まゆかさんのお話を聞いて、就活においても日常生活においても大変勉強になりました！貴重なお時間をありがとうございました。



2020.11.13

Aoi Suzuki

Hannah Kawamura

Sayaka Inokuchi

Miki Kawabe

Mayuka Hirata